

12月10日臨時記者会見 発言要旨

〔堀場会頭代行より発言〕

先日、一部の新聞報道がありましたので、改めて今の私の考えを、皆さんにお伝えさせていただきたく存じます。

塚本能交会頭は今年1月末以降、療養が続いております。11月の会見でもお話ししましたが、早期の復帰は難しいと思われる状況です。

この間、私は会頭代行として、副会頭の皆様のお力添えをいただきながら、会議所運営に支障が出ないよう活動してまいりました。

しかしながら、はや10か月となり、塚本会頭へのご心配の声とともに、今後の会議所の体制についても、多くのご心配をいただくようになってまいりました。また、塚本さんが復帰されたとしても、会頭職の激務に耐えうるかという懸念も拭えない状況であります。

会議所の運営はもとより、会員をはじめ中小・小規模事業者の多くが、コスト増や人手不足など厳しい経営環境に奮闘しておられる中、その支えとなるべき商工会議所の会頭が不在である状況が続くことは、京都にとっても、また対外的にも決して良い状態ではないことから、このまま長引かせるわけにはいかないと考えるようになりました。

こうしたさまざまな事情を鑑み、また幼いころからの親友である塚本会頭のこともありますから、塚本会頭の来年10月の任期満了までの間、私が会頭職を引き継ぐことを決断させていただきました。

先人たちが明治維新で衰退した街を、疏水や水力発電、教育の仕組みの改革などで立て直したからこそ、今の京都があります。そうした脈々と続いてきた成長を途絶えさせることなく、我々が50年100年後の人々にどんな京都を残していくのか、今こそ長期ビジョンを経済界として示し、行政と連携していく必要性を感じています。

もちろん、会頭選任については、私自身の考えだけでなく副会頭、常議員の皆さんの了承を得まして、議員総会にお諮りしなければなりません。副会頭の皆様には、先ほど会議を開きまして、私からご説明差し上げ、ご了承をいただいたところでございます。

また、来週17日に予定しております常議員会です承をいただいた上で、引き続き臨時議員総会を開催し、議員の皆さんにお諮りしたいと考えております。なお、正式な就任につきましては、来年令和7年1月1日付としたいと思っております。

塚本会頭ご自身は、志半ばで一旦、任を離れることは無念であろうと推察しますが、ご退任後は「特別顧問」に就任いただき、大所高所から引き続きご意見をいただきたいと考えております。

以上